

ますはし

「来て、見て、信じた」

「それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。」

(ヨハネによる福音書 第20章8～9節・新約聖書205頁)

はじめに

イースターを心からお祝い申し上げます。「主は生きておられます」。この復活の主を信じるならば、死に勝つ力である復活の力を帯び、永遠に神と共に生き、神の命に生かされて生きることができるのです。今日、イースターにあたり、もう一度復活の信仰を確認いたしましょう。マリアの行動

復活の第一発見者はマグダラのマリアです。4つの福音書を見比べると、微妙な違いがあるのですが、それはそれぞれの福音書記者の強調したい点が異なっているからです。流れをまとめると、①マリアたちが墓へ行く②墓が空であることを発見③天使から復活を告げられる④恐れと混乱の中で一度沈黙・その場から逃げ帰る⑤思い直して弟子たちに報告しに行く⑥再び墓に行き、泣く⑦復活のイエスに会う⑧弟子たちに「主を見た」と証言となります。ヨハネの場合、マリアの個人的な経験に重点が置かれていることが分かります。つまり、大切なことは、私自身が復活の主を信じ、今日も主は生きていて、私と共にいてくださるとの信仰に立っているかどうか、問われているのです。そのために、弟子たちの取った行動もそうですが、この「来て、見て、信じる」が重要な要素になってきます。来て、見て

マリアはまず「墓」にきました。これは常に主の十字架の死を見つめ、主が語られたことを思い返し、なぜ死んで葬られなければならなかったのかを見つめることが大切です。私たち

が墓前に立つとき、その人の生涯を思い起こすはずですが、マグダラのマリアは、主イエスから「七つの霊」を追い出していただいた経験があります。(マルコ16:9、ルカ8:2)精神的にもやんでおり、社会的な苦痛をも味わっていたことが想像されます。私たちの新しい生き方が始まった場所、それが墓であり、そこに来ることが復活の主と出会う一歩です。

次に「見る」ことです。墓はからだったという事実を私たちは確認すべきです。主は預言のとおり復活されました。これは「聖書の言葉を理解」することで深まっていきます。天使が「かねて言われていたとおりに」と言っているのはそのことです。御言葉を信じることによって、墓がからであることを見ることができます。

信じた

主が私たちに親しく語ってくださった、そのことを思い返し、御言葉によって復活を確信する。それだけではありません。その主が生きていて経験をすることです。それは祈りが聞かれたり、御言葉が実現していくことでわかるのですが、マリアは主に声をかけられています。そしてそれが主の声であることが分かり、確信し、そして「ラボニ」と信仰告白しているのです。「ラビ(先生)又(私の)」。私の主との告白を積むことによって、私たちはその復活の主と共に生きることができるのです。(ヨハネ14:19)

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。…マリアは墓の外に立って泣いていた。…後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。『女よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。』マリアは、園の番人だと思って言った。『あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか、どうぞ、おっしゃっ



てください。私が、あの方を引き取ります。』イエスが、『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、『ラボニ』と言った。

『先生』という意味である。』(ヨハネ 20:8～16)

「しばらくすると、世はもう私を見なくなるが、あなたがたは私を見る。私が生きているので、あなたがたも生きることになる。」(ヨハネによる福音書 14:19)

主イエスさま、あなたは復活し、私と共におられ、そして私の内におられて、私を生かしてくださっている、私の主です。御名によって祈ります。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (100) 第5章3節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「よその女の唇は蜜を滴らせ その口は油よりも滑らか。」

◎口語訳 「遊女のくちびるは蜜をしたたらせ、その言葉は油よりもなめらかである。」

◎新改訳 「他国の女のくちびるは蜂の巣の蜜をしたたらせ、その口は油よりもなめらかだ。」

「よその女」

この節を読めば、なぜ父が「唇に知識」と言ったのかがわかります。「よその女の唇」と対比しようとしたからです。

その唇について語る前に、「よその女」について解説しておきます。上記の訳をご蘭いただければ分かりますが、「よその女」「遊女」「他国の女」と、それぞれ違っています。ここでわかるのは、基本的に「自分の妻ではない女性」で、他人の妻、または結婚外の関係に誘う女性を指します。この章全体を読んでみると、「姦淫への警告」に主眼点が置かれていますので、既婚者を誘惑する女性、不倫関係へ導く存在を意味します。

口語訳は今から70年前の世相が反映しています。「遊女」としたのは、当時の理解として性的に誘惑する女性の典型だったからで、具体的に訳し過ぎてしまった感があります。というのも、原文(ヘブライ語)では必ずしも職業とし

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵(1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵(10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵(22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉(22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉(25:1～29:27)
 - c アグルの言葉(30:1～33)
 - d レムエルの言葉(31:1～31)

での娼婦に限定されておらず、不道德な関係に誘う女性全般を指していると考えられるからです。この原語には「異邦の女(外国の女)」というニュアンスが含まれているため、新改訳が「他国の女」と訳したのだと思いますが、外国人という意味ではなく、旧約聖書の文脈からいって、偶像礼拝に関わる女性を暗示させているように思います(新改訳の訳者もそれを考えた?)。たとえば、ソロモンが外国の妻たちによって偶像礼拝に引き込まれたように、信仰、生き方を乱す誘惑の象徴でもあります。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

ヨブ記第32章2節「彼の怒りがヨブに対して燃え上がったのは、ヨブが神よりも自分を正しい者としたからである。」◆エリフは最初からいたのではないだろう。最初に来たのは3人だと書いてある。ただ、議論が始まってからはずっとそれを聞いていたはずだ。なぜ議論に加わらなかったのか。一番年若い者で、また父親の代理で来たようにも思われるからだ。軽々しく発言できないような立場だったのがよかった。熱くならず、冷静に双方の言い分を聞き、分析していた。このように大局をみていくことで、この本質を見抜くことができる。

●賛美 / 43 ●祈祷課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

ヨブ記第33章13節「なぜ、あなたは神と争うのか 自分の言葉に神が一つも答えないからといって。」◆エリフはヨブに、「なぜ神と言いつ争っているのか」と問うた。私たちは祈りにおいて、神に問いかけることはできる。むしろ、どうしてなのでしょうと問うべきであるが、神と言いつ争う、つまり、神からの御旨がはっきりと示されているのに、自分の考えていることと一致していないと、それに対して従おうとせず、自分の意を貫こうとする。その態度は高慢である。エリフはヨブの言葉のはしはしからその高ぶりを感じたのだろう。

●賛美 / 44 ●祈祷課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

ヨブ記第34章10節「それゆえ、思慮ある人は聞け。神が悪を行うはずはなく 全能者が不正を働かざるはしない。」◆神がなされることはすべて「時に適って美しい」(コヘトの言葉 3:11)。神は最善しかなさらない。また神は悪を見逃さず、さばきを曲げることはない。どこまでも正しい御方である。そう私たちは信じていくべきである。そうすれば、自分の身に起こる出来事が、神のなされる最善のわざなのだと受け取ることができるならば、いたずらに自分の心を傷つけることなく、希望を抱いて耐え忍ぶことができると信じる。信じる者は失望に終わることはない。

●賛美 / 45 ●祈祷課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

ヨブ記第35章12節「彼らはそこで叫ぶが 悪人の高慢を前にして、神は答えない。」◆エリフはヨブだけでなく、友人たちに対しても、ヨブの言葉を引用しながら、意見している。エリフは、神は人間ではないのだと言っている。当たり前だと思っだろう。だが、私たちは神が私たちの規準で物事を動かしていると考えやすい。だから、自分の常識、つまり「神ならばこうするだろう」という考えに当てはめ、それとは違う結果に右往左往しているのだ。神は神であって人ではない。神を信頼し、その全貌が明らかになるまで「ただ神を待つべきだ」(14)。

●賛美／46 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため(社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅)、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

ヨブ記第36章15節「神は苦しむ人をその苦しみによって救い 彼らの耳を虐げによって開く。」◆神の御心を知ることは難しい。だから、神に祈り、より近く、親しく交わることを心がけるわけだし、神の御心を悟りやすいように御言葉を心に蓄えておくことが肝心である。それが無いのに「神は私にばちを与えている」とか「神は私を見捨てている」などというほうがおかしい。エリフは「苦しみは罪がもたらしたばちではない」と言っている。逆境によって、神のメッセージが受け取れるようにしているのだと、友人たちを諭した。

●賛美／47 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師(牧師一家)、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

ヨブ記第37章14節「ヨブよ、耳を傾けてほしい。立ち止まって、神の驚くべき業を悟ってほしい。」◆エリフの言葉はさらに続く。おそらく、相当我慢していたに違いない。堰を切ったようにしゃべりにしゃべった。だが気づいただろうか。友人たちがひとこと語るごとに2倍3倍の言葉をもって返していたヨブの反論がない。なぜか。彼はヨブにも納得できるような正論を語っていたからだ。パウロがテモテに出した手紙で「あなたは年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ…模範になりなさい」(一4:12)とアドバイスした。信仰の長さではない。求めの深さである。

●賛美／48 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

ヨブ記第38章3節「あなたは勇者らしく腰に帯を締めよ。あなたに尋ねる、私に答えてみよ。」◆いよいよ神が介入される。まずは愚かな友人たちのさばきの言葉が語られそうだが、神はヨブに語られた。友人たちの存在がヨブの試練の道具であったことを示している。そこで神が語られた言葉はヨブの疑問に答えるものではなく、かえって神から問いつめられるような内容だった。しかも、ヨブのみならず、人が答えられるような内容ではなく、ヨブはただただ沈黙するしかなかった。私たちもヨブ同様、神の前にひれ伏すことしかできないのではないか。

●賛美／49 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【マタイによるふくいんしよ 28:16～20】

「イエスキマからの めいれい」

(マタイ 28:19)

イエスキマが ふっかつされたあと、さいしちょうたちは ちょうろうたちと あつまり、はなしあったあと、ローマのへいしたちにいいました。「イエスが『ふっかつした』と いいはじめたら しんじるものたちが おおく でてきてしまう。だから、そのまうに まちにでていって、『ぬすまれた』といいふらしなさい」。そして、たくさんの おかねを あたえてたのんです。なんと わるがしこいことでしょう。

しかし、そんなことは むだでした。イエスキマは ふっかつされたすがたを おおくのひとたちにおみせになりました。イエスキマは じゅうじかにかかって つみの みがわりをなしとげられ、わたしたちの つみを きれいにしてください、つみのちからに かったことを ふっかつすることによって、はっきりさわからせてくださったのです。それが みんなに わかりま

した。そして、イエスキマをしんじる ひとたちは すくい を あたえられました。

イエスキマは でしたちを やまにくるようにならされました。このやまは きっと イエスキマが おしえをと き、きゅうしょくの きせきをおこなった おかだと おもいます。でしたちは そのときの きせきを おもいだしたことでしょう。あつまるところで、イエスキマは いわれました。

「わたしのじゅうじかと ふっかつの できごとをおおくのひとたちに かりなさい。このことは みんなをすくい、しあわせにするための ふくいんとなります。そして、しんじたひとには せんれいを さづけ、あなたたちとおなじように わたしにしたがう せいにしなさい」

たいせつなごめいれい うけた でしたちは きんちょうし、ちゃんとできるだろうかと おもったはずです。でもイエスキマは いいました。「わたしは よの おわりまで、いつもあなたたちと いっしょにいます」 ちからづよい おことばでした。

●かながえてみよう

☆イエスキマが ふっかつされたあと、さいしちょうたちは どのようなことをして いましたか。(マタイ 28:13)

☆イエスキマは でしたちを どこに あつまるといって いいましたか。(マタイ 28:16)

☆イエスキマは そこで どのようなことを いわれましたか。(マルコ 28:19)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

せんれいをさおける

を			ず	い	け	ん	れ	さ
れ	ず	ん	さ	を		け		る
け	い	さん	れ		せ			
せ	ん	け	い	さ		れ	る	
る	を	ず	れ	せ		さ	け	
		い	る			ず		
		れ					ず	
	る							
	さ		せ	る				

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。教えてください。

- ① いっけんのさいのう
- ② たべてすのみ
- ③ よわおのり
- ④ とてちん

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「枕草子」

「春はあけぼの ようよう白くなりゆく山ぎわ」。有名な清少納言の枕草子です。この節は「おもむきがある光景をリストアップした部分です。春は夜明けの様、夏は夜の月明かり、秋は夕暮れ、そして冬は寒さ。それだけではなく、ほかの項目を立ててリストアップしています。たとえば、うくしいもの、心が躍るもの、上品なものというぐあいです。

その中で、「うれしいこと」として、リストアップしている物事を紹介すると、「一卷目を読んで、『こ

の続きを読みたいなあ』とっていたら、その続巻が手に入ったとき、「病気が人が全快したと聞いたとき」「仕えている高貴な人からほめられたとき」「よい紙(和紙)を手に入れたとき」。それに終わらず次々に、清少納言の性格がもろにでてくる、というか一種のユーモアが綴られていきます。「勝負事に勝ったとき、うれしくないひとはいないでしょ」、「高慢ちきな態度で接してくる人をままとだますことができたとき。とくに女より男だったときには爽快」、「憎らしいと思っていた人がひどい目にあったとき」「ほかのひとをさしおいて、自分が中宮(仕えていた天皇の奥さん)の近くに来るように招かれたとき」。昔も変わらぬ、人間の本心をあからさまにしたから、枕草子は評判になったんです。

聖書ふれあい街歩き

●キレネ

マタイの福音書にも紹介されていますが、主イエスが担げなくなったため、代わりに十字架を担がされたのがシモンです。シモンはユダヤ人だったと思うのですが、「キレネ人」とされています。パウロと同様、ディアスポラ(外国に寄留していたユダヤ人)だと考えられます。

キレネは北アフリカの地中海沿岸、現在のリビアの東部にあたります。交易も盛んな重要な都市でした。

実はキレネは紀元前7世紀ごろにギリシヤ人によって建設された都市で、それゆえに特にギリシヤ船の寄港地であり、その町の成り立ちから哲学や学問でも知られる文化的中心地でもありました。比較的雨が深い地域で、北アフリカの中では珍しく肥沃だったようです。ユダヤ人も多く住んでおり、キレネのユダヤ人については聖書にたびたび登場します。ペンテコステの出来事では「リビアのキレネ」(使徒 2:10)に住む人たちもいました。ステファノと議論したのは「解放奴隷とキレネ人とアレクサンドリア人の会堂」の人たちでした(使徒 6:9)。このシモンはエルサレムで過越を守ろうと、わざわざ遠くから来ていた熱心な人だったことがうかがえます。

ななめ聖書 先週のこたえ

る	お	と	な	は	そ	こ	れ	い
な	は	れ	い	こ	お	る	そ	と
い	そ	こ	と	れ	る	は	お	な
と	な	る	こ	お	い	そ	は	れ
こ	れ	は	そ	な	と	お	い	る
そ	い	お	れ	る	は	と	な	こ
は	と	い	る	そ	な	れ	こ	お
お	こ	な	は	と	れ	い	る	そ
れ	る	そ	お	い	こ	な	と	は

- ① おおきなじしん
- ② みはりのもの
- ③ ひれふした
- ④ いなずま



パウロの弁明

パウロは言った。

「私は確かにユダヤ人です。キリキア州のれっきとした町、タルソスの町の市民です。どうか、この人たちに話をさせてください。」

大隊長が許可したので、パウロは階段の上に立ち、民衆を手で制した。すっかり静かになったとき、パウロはヘブライ語で話し始めた。

「兄弟であり父である皆さん、これから申し上げる私の弁明を聞いてください。」

パウロがヘブライ語で語りかけるのを聞いて、人々はますます静かになった。パウロは言った。」(使徒言行録21:39~40、22:1~2)



アントニオ要請(模型)

【弁明の許可】

ローマの大隊長はとにかく、この騒動を鎮静化するために手段を選んでいる暇はありませんでした。そこでパウロの要求通り、ユダヤ人に向かい、弁明の機会を与えたのです。

ただ、むやみに許可したわけではありません。まず、以前暴動を起こした「エジプト人」ではないとわかりました。少なくともパウロがエルサレムを混乱させようとしている人物ではないと確認できたわけですから。次に、この時、タルソス出身であると聞きました。当時のタルソスは、アテナヤアレクサンドリアと並ぶ学術都市として有名でした。ギリシア語を話したこともあり、それなりの教養を身につけていると認められました。さらに「ユダヤ人」との言葉に、異教徒ではなく、同胞であることもわかりました。短い時間でしたが、パウロが何者であり、語らすにふさわしい人物かどうかを判断し、許可したのでした。

ただ、パウロはここで「私はローマ市民である」と言っています。一番手っ取り早かったのではないかと思うのですが、パウロは市民権によって保護を願おうとしたのではなく、ユダヤの民衆に語る機会を得ることのほうが重要だったので、ローマ人として保護されてしまい、群衆から切り離されるのではないかと考え、ローマ市民権を前面に出さなかったでしょう。

【ヘブライ語】

パウロがヘブライ語で語りかけると、それまでざわざわしていた群衆はますます静かになっていきます。「この人は自分たちの仲間だ」と認識したからです。

ここでいう「ヘブライ語」とは、実際には日常

語であったアラム語、つまりユダヤ人の共通語を指していると考えられています。主イエスの使われていた言葉もアラム語だったとされています。

ヘブライ語は旧約聖書の主要な言語で、聖書及び宗教儀式に使われるイスラエル民族の伝統的な言語、いわば「聖なる言語・古典語」と言うことができます。アラム語は古代中東の共通語で、ユダヤ人だけでなく、近隣の国々でも使われていた国際語でした。ペルシア帝国統治以降、日常会話で広く使われ始めていきました。つまり、バビロン、ペルシアが多くの国を支配し、民族の強制移住を進めたことで、言語もシャッフルされ、共通にコミュニケーションが取れるアラム語が現れたのです。ですから、主イエスの時代は日常会話はアラム語、聖書朗読や礼拝、宗教儀式はヘブライ語、そして行政や外交にはギリシア語と、三言語がそれぞれの場面で使われていました。パウロがギリシア語を使ったことが人物の高評価につながったのは、そのような背景もあったのです。

では、なぜ「ヘブライ語」と書かれているのでしょうか。「ユダヤ人の言葉」をヘブライ語と呼ぶ習慣があったためです。ただし、両言語は、日本語と韓国語ほどの違いがあったようです。

群衆は、直前までパウロを異邦人と交わる者、律法を汚す者、神殿を汚した者とみなして激しく怒っていましたが、自分たちと同じ言葉で語り始めたことで印象が一変、同胞意識が生じ、静かになったのです。ローマ側の人間ではないかとの懐疑も払拭され、「我々と同じ言葉を話すユダヤ人」だから、言い分を聞いてみようかという態度になりました。身内だと思ったことで、一気に心理的距離が縮まったのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかられた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

